

XORのはたらき(活性)と 脳や心臓の病気との関係

XORとは？

XOR(キサンチン酸化還元酵素)とは、体の中でプリン体から尿酸が作られる際に重要な役割を果たす酵素です。

XORのはたらき(活性)は、最近調査され始めたばかりですが、XORのはたらきが活発になると血管が傷つきやすくなり、血管が固くなって血液の通り道が狭くなる動脈硬化が進み、脳卒中や狭心症、心筋梗塞症などが起こるのではないかと考えられています。

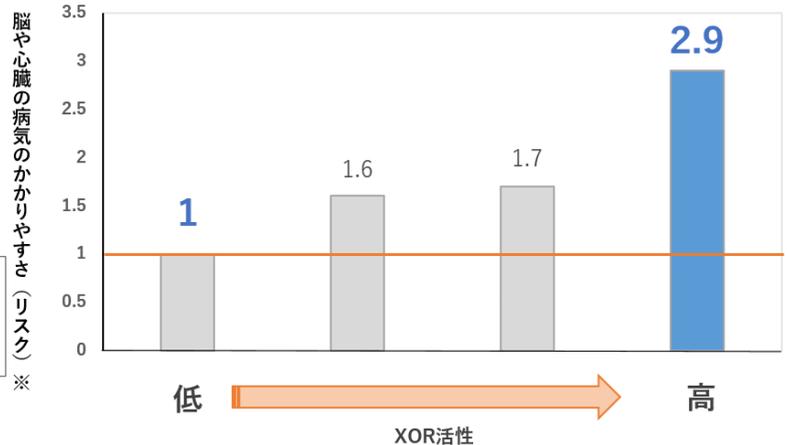


調査でわかったこと

XOR活性の高いグループは、脳や心臓の病気にかかりやすい可能性があることが分かりました(図1)。

IMMのサテライト調査に参加された1,631人を血漿XOR活性の高さによって4グループに分け、グループ間の脳や心臓の病気のかかりやすさを比べました。

※ 病気のかかりやすさ(リスク)が1よりも大きいと脳や心臓の病気にかかりやすく、1より小さいとかかりにくいことを表します。



▲ 図1: XOR活性と脳や心臓の病気のかかりやすさとの関係



XORがどのようなはたらきをしているのか、他の検査データを用いてさらに検討を進めているところです。

この研究を通じて、地域のみなさまの病気の早期発見や重症化予防などにつながれたらと考えています。